中学生教育委員会
～学校生活・授業の向上を～

1月6日(金)、「中学生教育委員会」が揖斐川町役場で行われ、揖斐川中学校2年の岡部拓海さんを議長に、町内6中学校の1、2年生19人と教育委員、教諭など約50人が参加しました。

揖斐川町では、平成17年の町村合併を機に、理想の中学校を示した中学生憲章が制定されました。中学生教育委員会では、その具現化に向けて意見交換を行いました。

中学生委員からは、生徒数が減少している現状から、他校との交流によってお互いの学校生活を充実させたいなどの意見が出ていました。また、6校が共通して「良いこと見つけをする」に取り組むことが決定されました。

▲学校での取り組みを発表する生徒

阪神・藤原投手が野球教室
～プロの技術を子どもたちに～

1月8日(日)、揖斐小学校グラウンドで、揖斐川町出身のプロ野球選手藤原正典投手（阪神タイガース）による野球教室が行われました。

野球教室は、スポーツ少年団の揖斐野球クラブが藤原投手を招いて開催。小学校1年～6年生の団員約30人が参加しました。

キャッチボールやゴロの捕球、投手の投球などの練習メニューで一人一人を見て回った藤原投手は「ひじが肩より下がらないように」「捕球は、次の送球のことを考えて」などとアドバイスをしました。

指導を受けた子どもたちは「手だけで投げるのではなく、体全体でバランスを取るように教わり制球が良くなった。」と喜んでいました。

▲捕球の指導を受ける団員たち

間伐材を利用して炭焼き体験
～春日小学校～

1月13日(金)、春日小学校の4年生10人が、炭焼きに挑戦しました。

春日地域で、昔は盛んであった地域産業の炭焼きを学ぶことを目的として、今年度から総合的な学習の時間に取り組むことになりました。

小寺春樹さんと小寺明さんを講師として、春日古屋にある共同炭焼き小屋で窯入れを行いました。

児童たちは「窯の奥から隙間なく並べよう」とアドバイスを受け、杉やヒノキの間伐材約1トンを窯に入れました。児童は「重い木をたくさん運ぶのは大変だったけど、昔の人たちの苦労がわかった」などと感想を話していました。

▲間伐材を窯入れする児童たち

春日燈籠まつり
～無病息災を願う～

1月14日(土)、無病息災を願って男衆が燈籠を奪い合う「燈籠まつり」（岐阜県無形民俗文化財）が、春日六合下ヶ流地域の薬師堂で行われました。

このまつりは、同地域に伝わる伝統行事で、燈籠の一部を手にすると、1年間無病息災・家内安全に御利益があるとされています。

燈籠は、竹と和紙で行灯の形をつくり、縁起ものの飾りなどが施されています。20時30分頃から男衆が集まり始め、薬師堂の中央につるされた燈籠の下で「ションガイナ踊り」という独特の節回しの舞を奉納。22時過ぎに男衆と見物の家族ら約100人から「オイサ、オイサ」の掛け声が沸き上がり、禰宜がロープを引いて燈籠を落とすと、男衆は一斉に燈籠を奪い合い、1年の幸運をつかみ取っていました。

▲燈籠に手を伸ばす男衆

ぎふ　ふるさと暮らし「リレーキャンペーン」開催

岐阜県が、移住・定住支援策として、県内で実現できる田舎暮らしをイメージした「4連ポスター」を作成し、撮影地となった4市町（郡上市・高山市・恵那市・揖斐川町）の観光施設等で、岐阜での田舎暮らしをPRするリレーキャンペーンを開催しました。

1月14日(土)から28日(土)の15日間は、揖斐川町で行われ、撮影地となったワンダ農園のある藤橋地域の道の駅「星のふる里ふじはし」で、ポスターの掲示やパンフレット等の配布を行い、利用者に田舎暮らしの魅力をアピールしました。

初日には、ぎふ　ふるさと暮らし応援隊がキャラバン活動を行い、「岐阜での田舎暮らしをサポートします。」と呼びかけました。

▲岐阜での田舎暮らしをPR

岐阜県総合移住相談会 in名古屋
～揖斐川町での田舎暮らしをPR～

1月29日(日)、中日ビルで岐阜県総合移住相談会in名古屋が開催され、岐阜県と県内8市町が個別相談ブースを出展し、愛知・名古屋地区にお住まいの方を対象に、岐阜県の移住・定住関連情報のPRを行いました。

揖斐川町も個別相談ブースを出展し、移住・定住に関する相談に応じました。

また、「移住者と語る会～先輩からのアドバイス」として、移住者の皆さんが実際の暮らしぶりについて話す移住応援セミナーも開催され、「田舎暮らし体験inいびがわ」に参加されたのをきっかけに、東京から揖斐川町に移住された方が、移住のきっかけや移住後の生活について発表を行いました。

会場には多くの相談者が訪れ「自然豊かな地域に移り住みたい」などと話されていました。

▲移住応援セミナーの様子

間伐材を利用した マイスプーン・マイ箸づくり

1月14日(土)、いびNPO法人連絡協議会が開く「いび地域環境塾」講座の一環で、間伐材を使った工作教室が開催され、揖斐郡内の親子約40人がマイスプーン・マイ箸作りに取り組みました。

NPO法人山菜の里いび理事長の小寺春樹（こでらはるき）さんを講師として、町内で伐採されたヒノキやケヤキの間伐材を利用して、参加者は、マイスプーンやマイ箸作りに挑戦しました。

木の棒を自分の手に合わせて長さや形を整え、紙やすりで削って滑らかに仕上げました。

参加者は「自分で作ったものを家での食事に使うのが楽しみ。早く使いたい。」と喜んでいました。

▲マイ箸作りに挑戦する参加者

谷汲・日間賀島観光協会 友好提携20周年記念式典

1月17日(火)、谷汲観光協会と愛知県南知多町日間賀島観光協会の友好提携20周年を祝って、中日パレス（名古屋市）で記念式典が行われました。

両協会は、平成4年に名古屋鉄道の北端と南端の地域で交流を深めようと友好提携を締結。お互いの地域イベントなどに参加し、物産販売などを通して交流しています。

谷汲観光協会の堀口賢一（ほりぐちけんいち）会長は「海になじみのない地域が日間賀島と交流を継続してきたことは、大変意義深いものがあります。これからもお互いに住民ぐるみの交流を続けていきたいと思います。」とあいさつされました。

▲谷汲観光協会堀口会長（左）と
日間賀島観光協会鈴木会長（右）

社会を明るくする運動 作文コンテスト入賞報告会

第61回社会を明るくする運動作文コンテストで、岐阜県保護司会連合会会長賞に入賞された、清水小学校6年の一瀬貴志（いちのせたかし）さんが、1月18日（水）に入賞報告で揖斐川町役場を訪れました。

この作文コンテストは、全国の小・中学生を対象に毎年開催され、家庭生活や学校生活の中で体験したことを基に犯罪や非行のない地域社会づくりを考えた作文が応募されます。

一瀬さんは、学校で取り組んでいる「ぽっかぽか言葉」や「あいさつ」をテーマに全校児童の手本となる言葉づかいや、元気に気持ちを込めたあいさつを実行することで、社会を明るくしていきたいという思いを作文にされ、報告会では「人を思いやるということを実行していこうと思います。」と話されました。

▲入賞おめでとうございます

「コーン炒飯」学校給食に登場 ～芽室町ご当地グルメ～

1月25日（水）、学校給食で友好都市である北海道芽室町のご当地グルメ「十勝芽室コーン炒飯」が登場しました。芽室町は、トウモロコシの収穫量と作付け面積が日本一で、コーン炒飯は4年前に生産者や企業などの協議会で試行錯誤の末、誕生しました。作り方には、バターしょうゆで炒めた粒コーンを後のせするなどの10のルールがあり、そのルールを全て満たしたものが「十勝芽室コーン炒飯」と認められます。

この日は、全国学校給食週間（1月24～30日）に合わせ、両町でコーン炒飯が給食で出されました。

児童たちは、コーンのシャキシャキの食感を楽しみ、「甘くておいしい」と北海道のご当地グルメに感激していました。

▲コーン炒飯を味わう児童たち

かすが幼児園竣工式

1月27日（金）、春日川合に移転新築された「かすが幼児園」の竣工式が行われました。かすが幼児園は、春日小宮神にありましたが、建築から約40年が経過し、老朽化が著しいことから、小学校との連携を高める目的で、春日小学校に隣接して移転新築されました。

町内産の木材をふんだんに使用し、木造平屋建約500平方メートルで、遊戯室や保育室などが整備されています。

竣工式には、地元関係者ら約50人が出席。宗宮町長は「新しいかすが幼児園が、春日地域全体のふれあいの場として、また、交流の拠点施設として皆さんに親しんでいただき、地域の発展に貢献できることを願っています。」とあいさつしました。

▲園舎の完成を祝って園児の太鼓演奏が披露されました

横蔵財産区管理委員を選任 ～豊かな自然を守ります～

1月30日（月）、揖斐川町役場で横蔵財産区の約105万平方メートルの山林管理を担う横蔵財産区管理委員の方々に選任書の交付が行われました。

揖斐川町は面積の約9割が森林です。豊かな森林資源は、水源地域として、また、二酸化炭素の軽減などの地球温暖化防止の面からも、果たす役割は大きいものです。

横蔵財産区管理委員の任期は4年で、次の方々が選任されました。

仲井博信（なかいひろのぶ）さん、杉山種男（すぎやまたねお）さん、杉山義雄（すぎやまよしお）さん、森本誠（もりもとまこと）さん
仲井政弘（なかいまさひろ）さん、杉山正樹（すぎやままさき）さん
松浦武正（まつうらたけまさ）さん

▲選任書交付式の様子

中学生海外派遣事業
～セントジョージ市で学ぶ～

町内の中学2年生の代表17人が、1月19日(木)から27日(金)まで、アメリカ　ユタ州　セントジョージ市で研修を行いました。

派遣団の皆さんは、セントジョージ市でホームステイし、アメリカ人の家庭の温かさに触れました。スノーキャニオン・ミドルスクールとデザートヒルズ・ミドルスクールの学校訪問では、文化交流会が行われ、日本や町の自然・歴史・文化・学校生活を英語で紹介しました。

また、パインビュー・ミドルスクールでは、ペアとなった生徒により校内を詳しく案内してもらい、アメリカの授業の様子を興味深く参観することができました。

セントジョージ市に滞在する最後の夜、さよならパーティーが行われ、書道、剣道、巫女舞などの日本文化を実演を通して英語で紹介すると、ホストファミリーの皆さんは、大いに喜ばれました。

翌朝、スノーキャニオン・ミドルスクールでお別れのあいさつをし、共に過ごした現地の生徒たちとの別れを惜しんできました。

派遣団の皆さんが今回の経験を活かし、学校や地域社会の中で、今まで以上に活躍されることを期待しています。

▲さよならパーティーでの日本文化紹介

▲記念撮影（スノーキャニオン・ミドルスクールにて）

地域防災の取り組みに感謝状
～揖斐警察署長から町へ～

1月31日(火)、大規模災害などで揖斐警察署が使用不能となった場合に、揖斐川町庁舎の一部を警察署の代替え施設として利用することを定めた協定書を締結するなど、安全安心な町づくり、地域の治安維持に対する取り組みに対して、揖斐警察署石原治（いしはらおさむ）署長から揖斐川町に感謝状が贈られました。

石原署長は「災害時の施設利用協定締結は、県内でも初めての取り組みで、警察活動の基盤整備における模範となりました。」とあいさつされ、宗宮町長は「災害時における警察関係機関との連携は心強いものがあります。」と話しました。

▲安全安心な町づくりを継続します

「福は内！」節分厄払い行事
～谷汲山華厳寺～

2月3日(金)、谷汲山華厳寺で、社団法人谷汲観光協会主催の節分厄払い行事が行われました。

この日は、平日で雪の舞う天候にもかかわらずおよそ800人の観光客が集まりました。

仁王門に設置された高さ3・3メートルの赤鬼をバックに、家内安全、無病息災などを願い福豆がまかれると、福をつかみ取ろうと訪れた参拝客は必死に手を伸ばしていました。

会場内では、甘酒無料サービスも行われ、この温かいおもてなしに、訪れた参拝客の笑顔がこぼれていました。

▲仁王門前で行われた豆まきの様子